

2006年8月刊行

# 建造物が免れえぬこの運命に 人はどのように対してきたか

## 崩壊に ついて

佐藤  
彰

A5判カバー装 244 ページ

定価 2,730 円 (本体 2,600 円+税)

ISBN4-8055-0527-0 C1052 ¥2600E

中央公論美術出版

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-7

電話 03-3561-5993 FAX03-3561-5834

建築は今日に至るまで様々な形で人々の意識にのぼってきており、一つ一つの建物には種々の思いが籠められてきた。人類の歴史には、それを映した数多のエピソードが散りばめられている。本書はこれを「崩壊」という切り口で語ってみようとしたものである。(本文より)

### 著者略歴

佐藤 彰 (さとう・あきら)

愛知教育大学教授 工学博士 建築史 1943年仙台生まれ 東京大学建築学科卒業 著書・論文：『成立期の英国近代建築産業』（私家版、1986）、同英語版 *Building in Britain, the Origins of a Modern Industry* (Scolar Press, 1995, 建築史学会賞)、「Fonthill Abbey の theatricality について」（久田晴則編『文化のカレイドスコープ』英宝社、2003年所収）、「初期工業化のもとのイギリス建築—もたらされた「虚偽」をめぐって」（鈴木博之他編『材料・生産の近代』シリーズ都市・建築・歴史9、東京大学出版会、2005年）

### 目次

- 第一章 緒としての二枚の絵
- 第二章 壊れやすい構造、壊れにくい構造
- 第三章 大聖堂の石造天井
- 第四章 イタリアの鐘塔
- 第五章 イギリス、フランスにおける中央塔の聳立
- 第六章 王朝時代の日本建築
- 第七章 手抜き・手抜き
- 第八章 天譴と僥倖
- 第九章 曲芸的デザインへの挑戦
- 第十章 雷撃、雷火と避雷
- 第十一章 死を忘るな、または虚栄の戒め
- 第十二章 不安、禁忌、予兆